



青山御流

活花手引種前篇三



多 9
2848
10-3



ヲ多
2848
10-3



三之卷凡例

○此卷専ら秋を以て種類をもつて次序となすは
花状は模様子随て例となすは聊濠の予記より
○此冊末の玉てはなると得るは本はと顯しを以てなす
さるる圖に除き品種をあらわし是と補ふは花形は是
犯と増減の趣意とも加へて宜前卷の例と雅して察考
ありし高其終に於いては即興の体と水庭にありし
ありし夫ら上に床棚附書院卓等其圖と物物の會合の
略飾と僅に一二具と記を猶委らるる別子傳意あり

詳

檜扇 ヒノアラキ

射于ナリ
鳥扇 トモ
鳳翼 トモ
仙人掌 トモ



おん斜面の席とアケ陰陽の
おもむきとをきく専要なり

あく斜面のりあり形くまてまばり
巻とまんとまの望にをりして入る水陽の
まの左のまにれごとく担へし
委ハ次とらる



ヤツテ
八手
魚ニ霞ハ毒ヲ生ト



如斯大葉とのくいて小葉のくいと並
とりしとて物ナリと云



ゆつて横智ハ横別産の使方あるはとく
等尔其工匠いともてあゆつて云

長く大葉ハ除くは小
葉のくいと毒ハ生
るはと云

風情
はとく
次は毒
と云

水葵

浮蓋ナリ
水葱トモ
雨久花也
さわらわし



あく入し...の葉はあり
別をほ...の葉は...
抽してあ...
半りも...
ヤ...

子体...
ち...

水葵...
陰陽...
水葵...
入...





檀特草

如此草

芭蕉志とんまことこれの意と

推定



此草とく梢と脚を欠き多き葉を随一のさし
 まつと大さの節の梢の葉を欠きよき葉を
 又るこきりさる左りまきるおふも二枝を
 同しより葉を欠きておく下は二本を左を

よりあつて
 卷りあつて
 海とえ

せんのかきくこ石竹の花はよしの格別を外きい
水際なるもあく一本つゝあまもよきあし小菊を
乃と二本も三本もよきあまもよき梅もよき
きんともよきあまもよきあまもよき



セシノク
仙公羽花

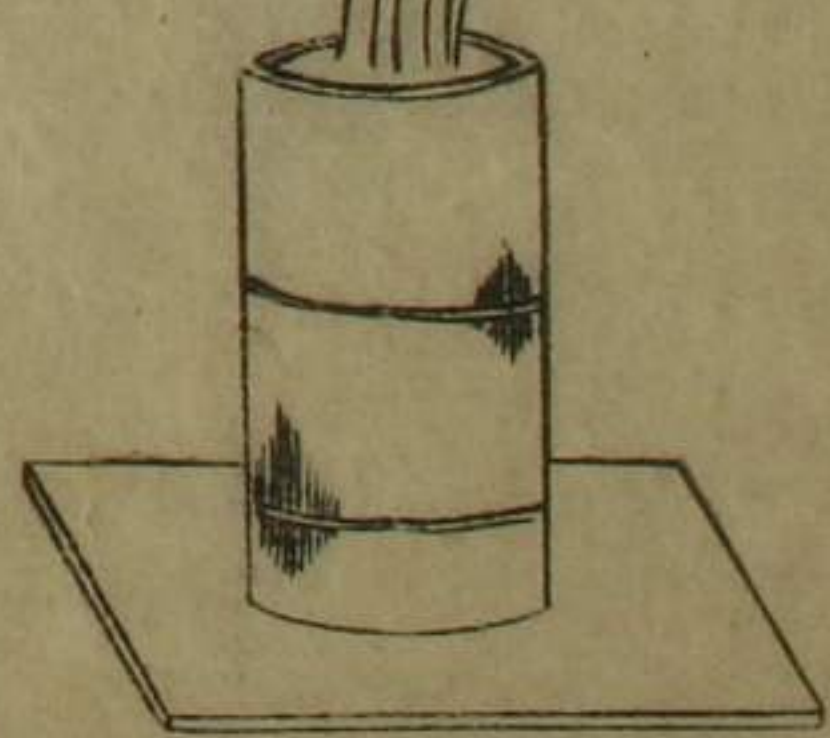
前カ秋羅ナリ
前カ紗花トモ



あゝきんしとくろつてふやに
きんしとくろつてふやに

檀松 杜若

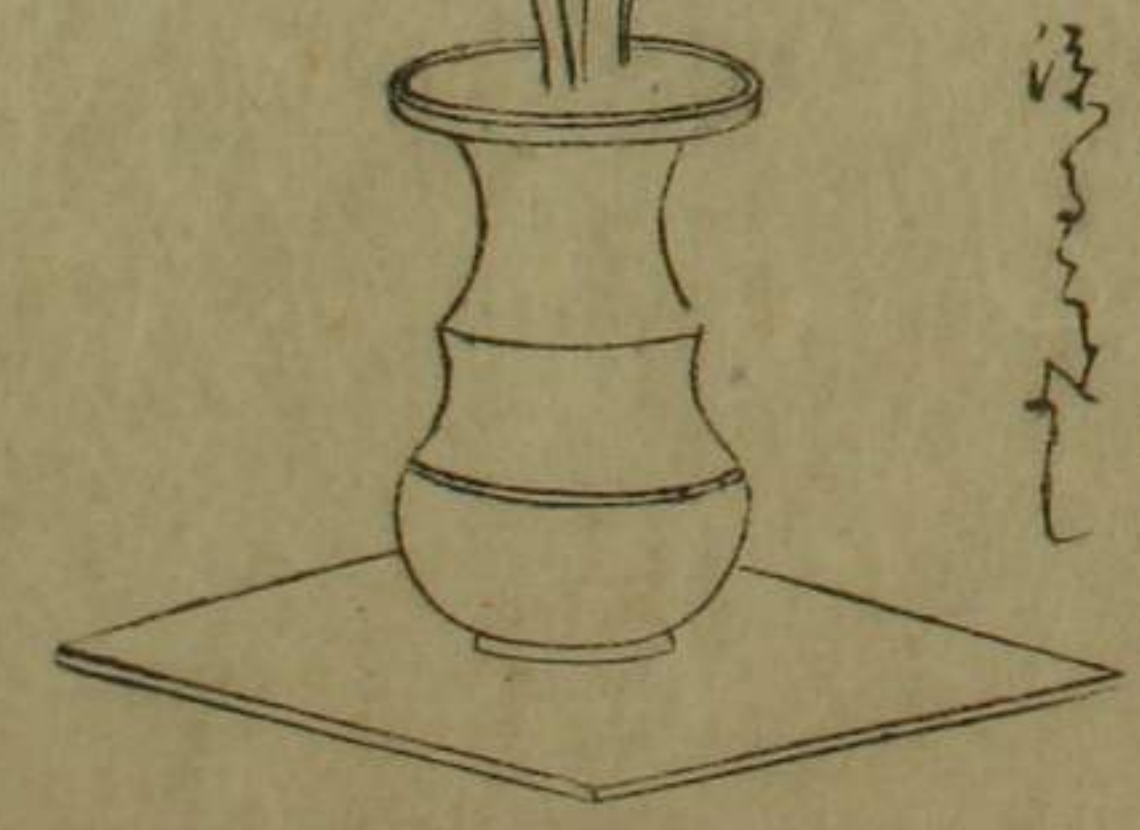
三春柳上



右の曲なる枝もまろくして風情
松のしるしも杜若のそとありし
上巧なる下はまもほにあらま
余もすこ同意

右の曲なる枝もまろくして風情
松のしるしも杜若のそとありし
上巧なる下はまもほにあらま
余もすこ同意

杜若もあつたほに
ほつた



かぐのなほくく下州とそゆまハ
 かみをりりて風情あは是れそく
 なるハまんのをありとともし
 冷の圖と



きんぎょ
 きんぎょ

女郎花

敗将圃ナリ
 女落芝也

かぐのなほくく下州とそゆまハ
 かみをりりて風情あは是れそく
 なるハまんのをありとともし
 冷の圖と



紫之
苑
志はる
おまのーとー



如此陽葉をて茎を抱へく入る
子作夏はるめり

志はる
おまのーとー
次とん

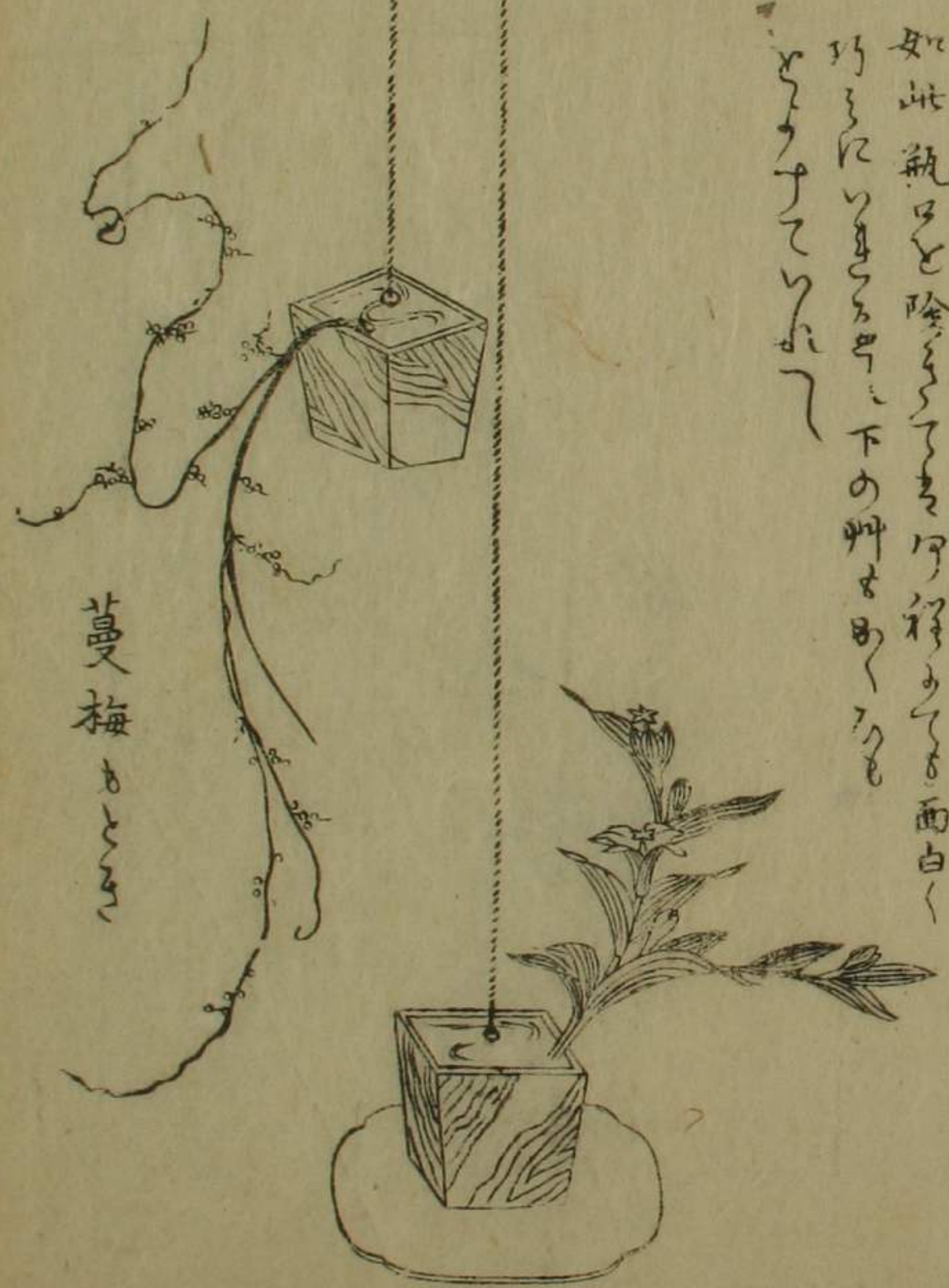


如斯に其種屈曲して
一鉢に様なきも友が
三つありて各一鉢口ふす
分りて各一鉢下の籠の
くさるはあつて不
足障りて各一鉢
次



ホトキスガウ
杜鵑草
山吹次

如此執口と陰してまはり
巧に下の料をあつて
つてり



蔓梅

大葉那るをわくわく後あふりゆふハふる勢ひ急し
 友芝よ々あてたりりとも平にましくよく物さし葉方ひ
 ちりハらうとむとらうてさし流のいんさるをわく
 尚左の園とえん



秋海棠 シラカイトウ

断腸花 トモ
 瓔珞草

あく水陰の草と引立
 器の口と杉ほりたる様よき
 茎も一方ハ秋海棠の性よふく
 打ちあびけて入るはか葉のちひちる
 もおちりつれも同きなり





ハキ
秋
天竺艸也
鹿鳴草
トモ
芳宜艸

舟はとも一たかりとも
おもて一ちりとも一方
おもひけ水際さるる
狗やりに入る一此外山あき
小手ゆり御花巻十何まて
形あきる熱遊同意なり



とれ

かく雙方亂と魔
まもり忌とあく約やに
一方一どりなびく
おもて上もれれあく水際
おもて上もれれあく水際
おもて上もれれあく水際
おもて上もれれあく水際

かく大ていよ遣る一但梅もこの
葉を悉くとてこれの葉をとりはれ
りてちかり梅もこれなり



梅ムス嫌モトキ
梅ハトモ賽ハトモ字不祥

あつ大輪を花をくくゆれ秋の情薄し
下能えと除き一方とほけ菊とあか
りあてきとる一次のまをえん



山梅花
茶梅トモ
海紅トモ



あゝのこゝろをよめと下の梢をさけおと添く遣へ
却て屈伸の面々花情深しお外椿沙羅樹木槿お
とてとて茶梅たたるおの世意とかくして入魚

あゝ枝くサ
しつてハ丸枝後し一本ありて
小菊と添へるり
つら枝枝梢をさけ左へ物をも二枝と
添へて元々添へ方と引まぬ一様ありてのこは却て茶梅深し
魚、吹け圖とて



是等の器ハ冬ノ對ニ雅ナレドモ
 寒牡丹ナリカ、葉薄シ茎トホシク又花
 馬ノ毛ノ如クノ手ツラキニシテ、
 次ノ圖ニ示ス



是ハ牡丹ノ葉ヲシテ、花ノ余リ
 ありて、冬ノ對ニ、
 名ヲ示して、
 富貴ノ草ノ
 有

寒牡丹
 冬牡丹
 右春牡丹ナリ、人巧ト知レドモ、
 冬ノ對ニ、
 有



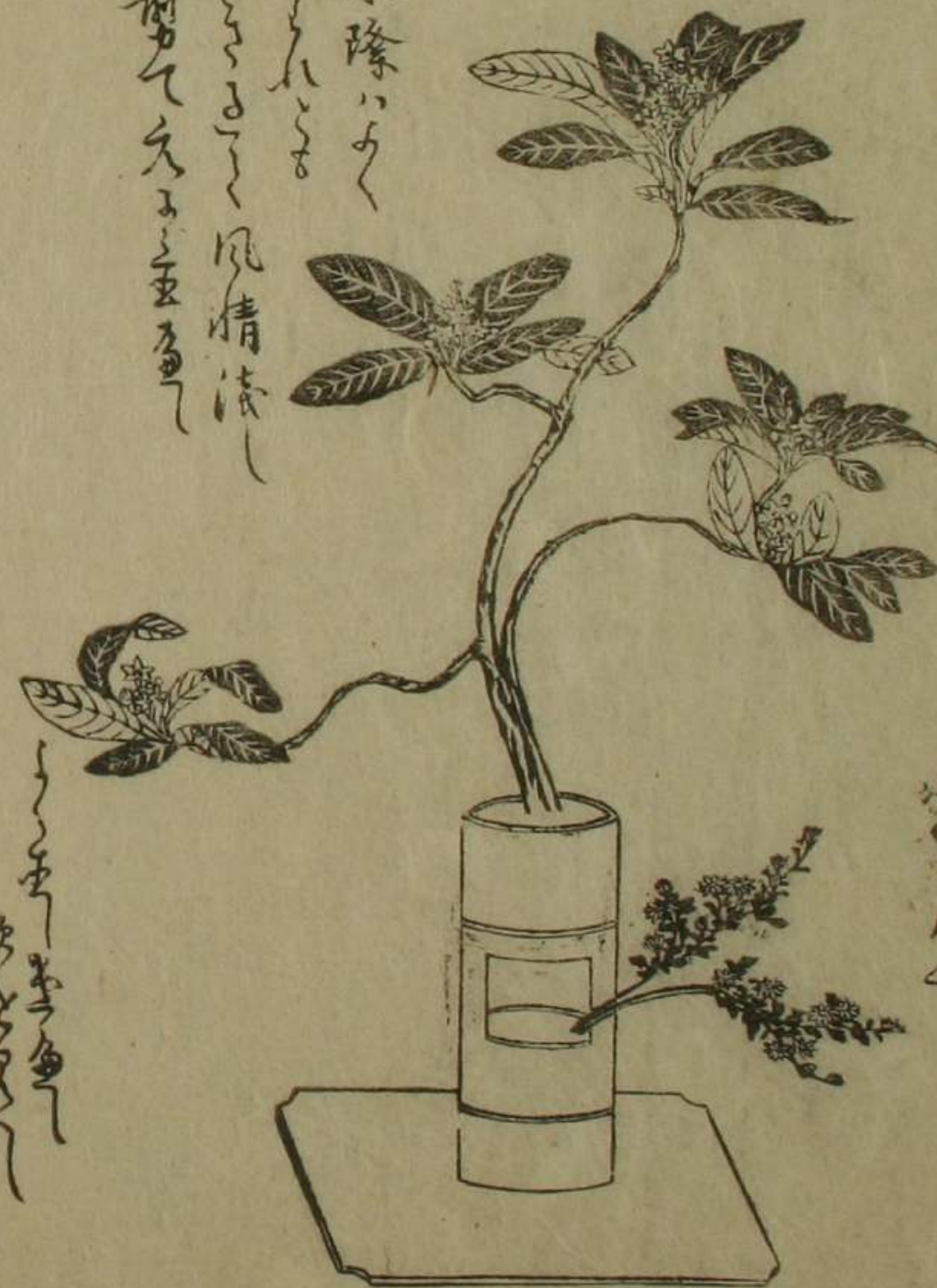
枇
杷

小
菊



上下ともにあつてはめて
 入るしとて外に己朴木猶
 とて外にすまふとて大なる丸
 とて外にすまふとて大なる丸

此作水除ハク
 添ハキルハ
 此のさるく風情清
 枝と前々久ふとま



小菊
 折る色ハ
 清々

清々
 清々

水仙



水仙草の葉は長く細く花は白く
あつたに花はよくつるすき
急 花も余りよくつるすき
なすの固く

水仙

金盞銀臺花
黄玉花
玉葉花



水仙草の葉は長く細く花は白く
あつたに花はよくつるすき
急 花も余りよくつるすき
なすの固く

水仙花
仙骨トモ



あつちまふ、好むと
よしと好む所は
まあり

あつちまふ、好むと
何程好むと



みられて、悪しき
餘情を
次の幸と

イノコヤナキ
 狗柳
 河揚
 蒲柳氏
 承子柳氏



圖は、水際の大枝を
 毛めくくつこのら好らあし
 漆く魚し、お舟いづれも同意なり

この柳は、葉は、まはなりのゆき梢と
 きめうきして、物やりにきる、あつはれとせ
 枝とまりあつ、小角、とのて、挿し、つとる



なるとん
水仙



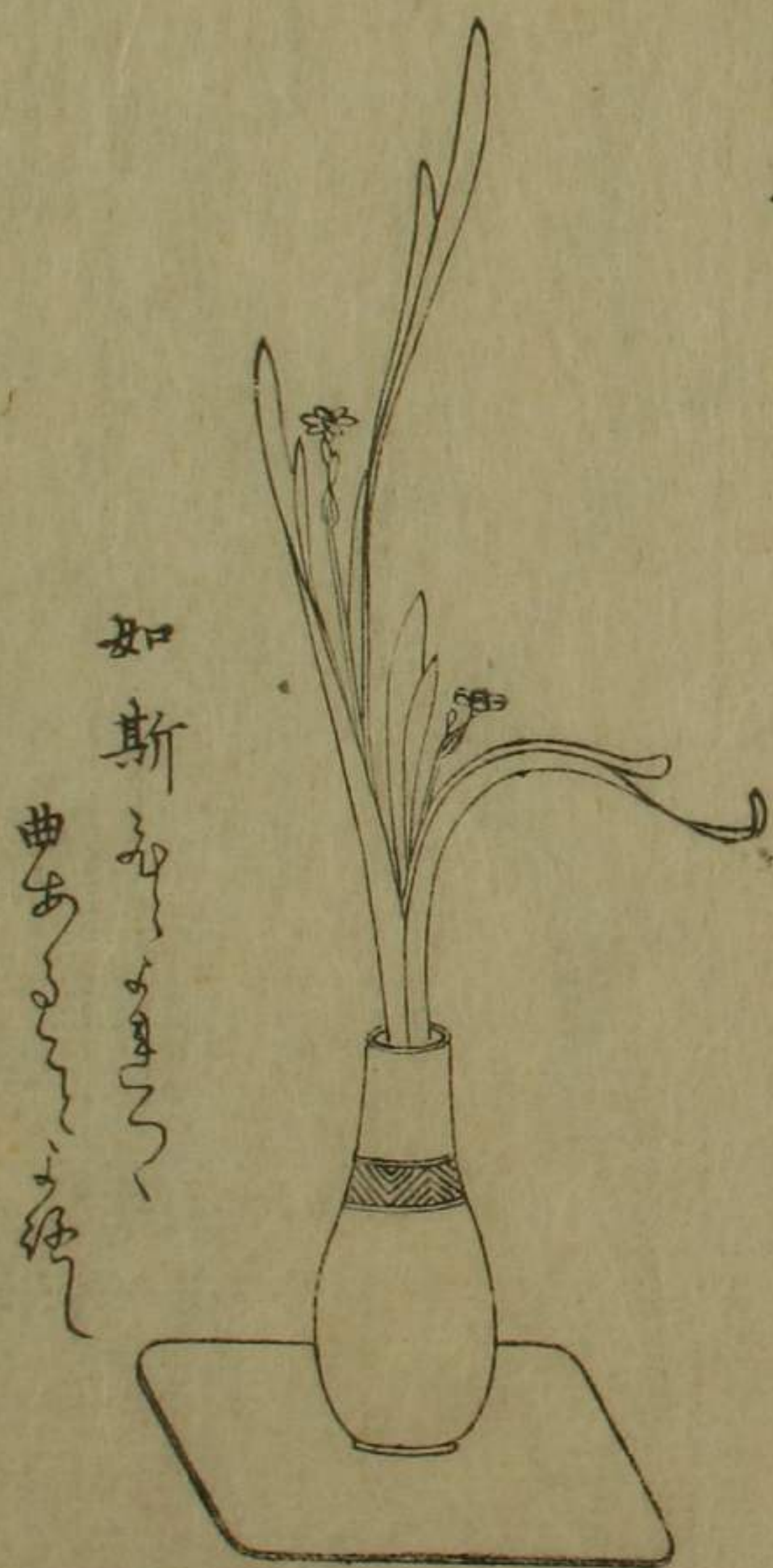
此南天一株ハガク枝ニ入ル
梢ガありナリ元ハシクモトモ
ナガメ薄シ低ク枝をとり根の曲りをねぎひて
とんも海へふし梢の實もナク多クなりニ
餘を去るし水仙も葉曲る却てし
次とん

南天燭
南天竹
蘭天竹トモ
凡八名有



如斯ハシクモトモ水仙の花も
一方とんニ一方とんナキ

水スイ僊セン



并

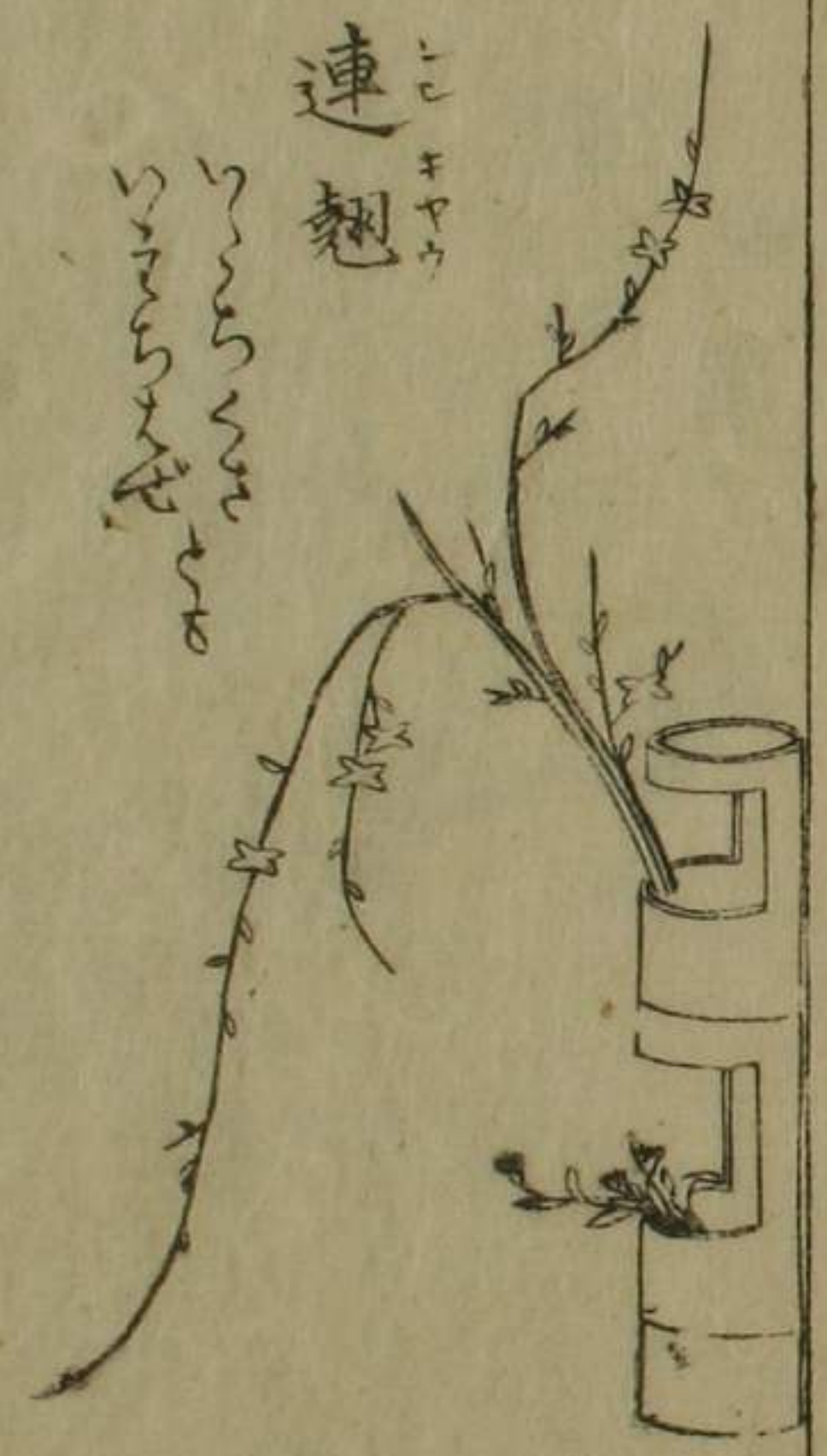
二二

水仙の葉曲あるは好む人多くは
こゝろあるは好しといふれは好む人多し
よきよき一葉の圓と云ふは



并

二二

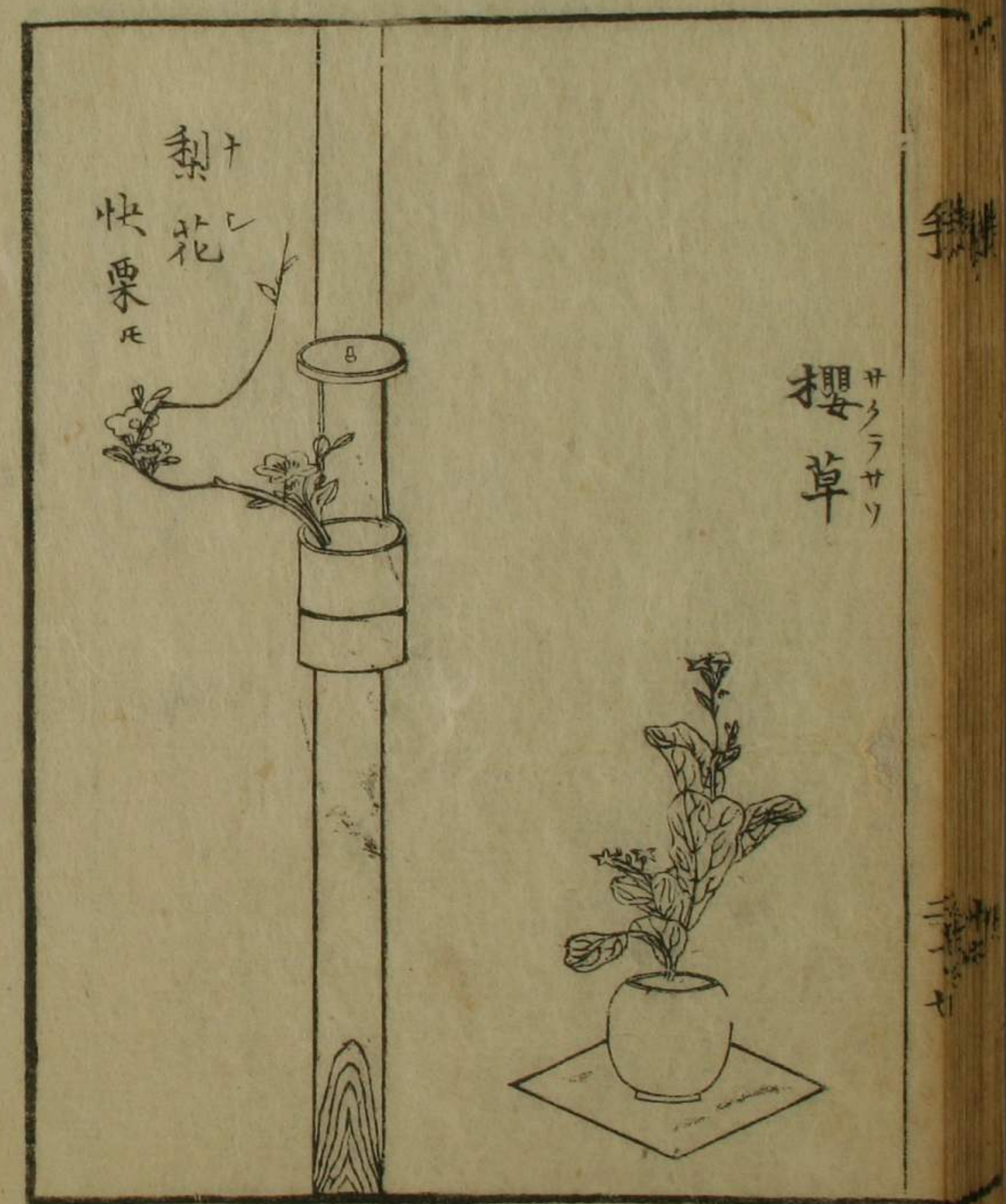


まんせん
别名莫之悉

ウウ
梅
寒梅氏
蘭梅氏
黄梅氏



此蠟梅より以下ハ多く重し得る者并而已と圖一頭也
ゆつと四季の順もいふべき其形の大小も随て二瓶
も三瓶も寄せ置る風作とより合さるるをたよりし浮
二昂興の趣也其ふたは採繪ありし棚附書院
は趣といふこと圓一と云ふは



夏椿 ナツツバキ
 沙羅雙叉樹
 聖固樹 ト

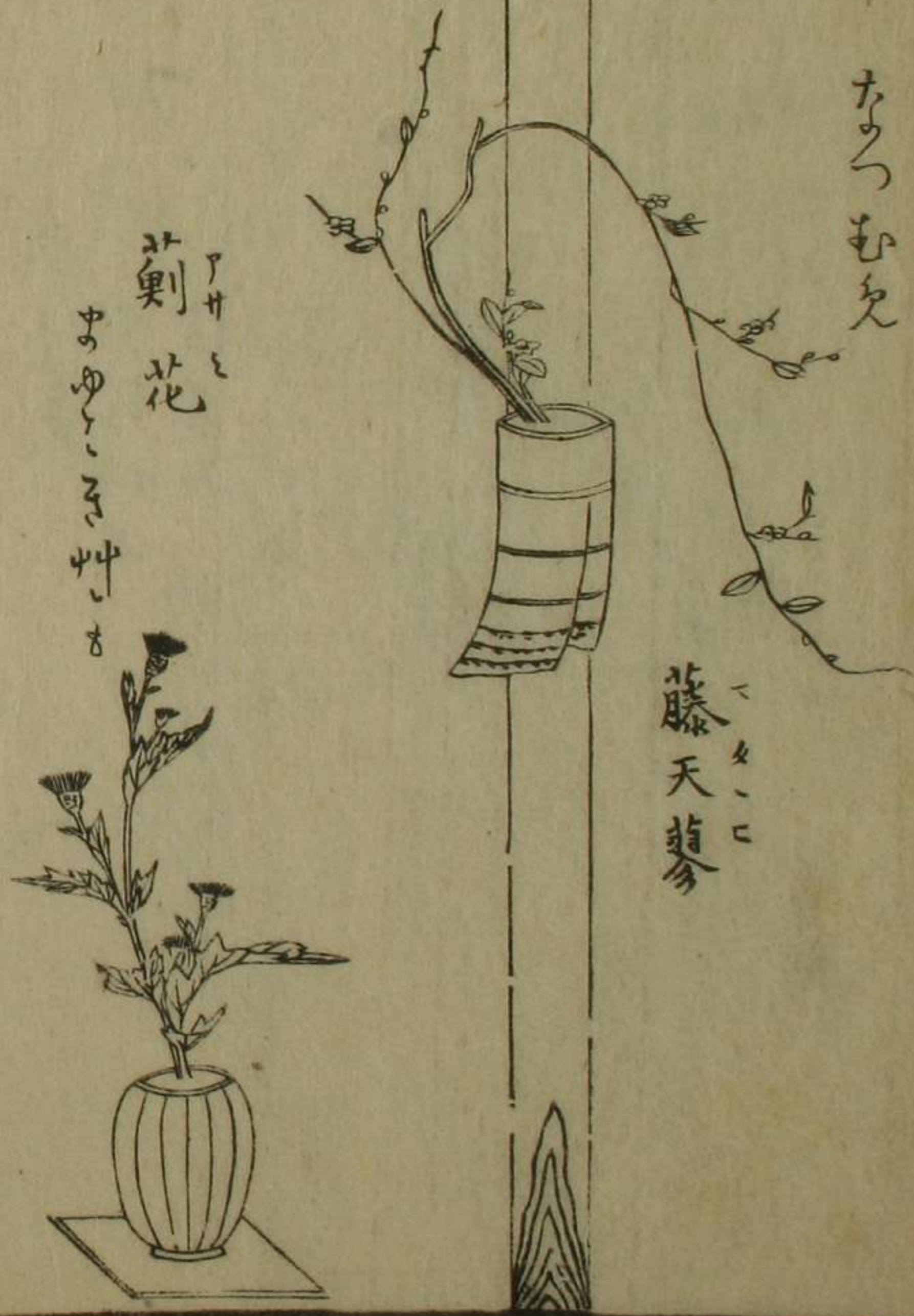
撫子 ナデシコ
とこなつとも
 瞿麥 洛陽花
 石竹 南天竺 ト



たのむ丸

刺花 アサヒ
あやの草

藤天蓼 フタバ



仙題多
珊瑚ナリ

猿猴杉
エシカフスキ

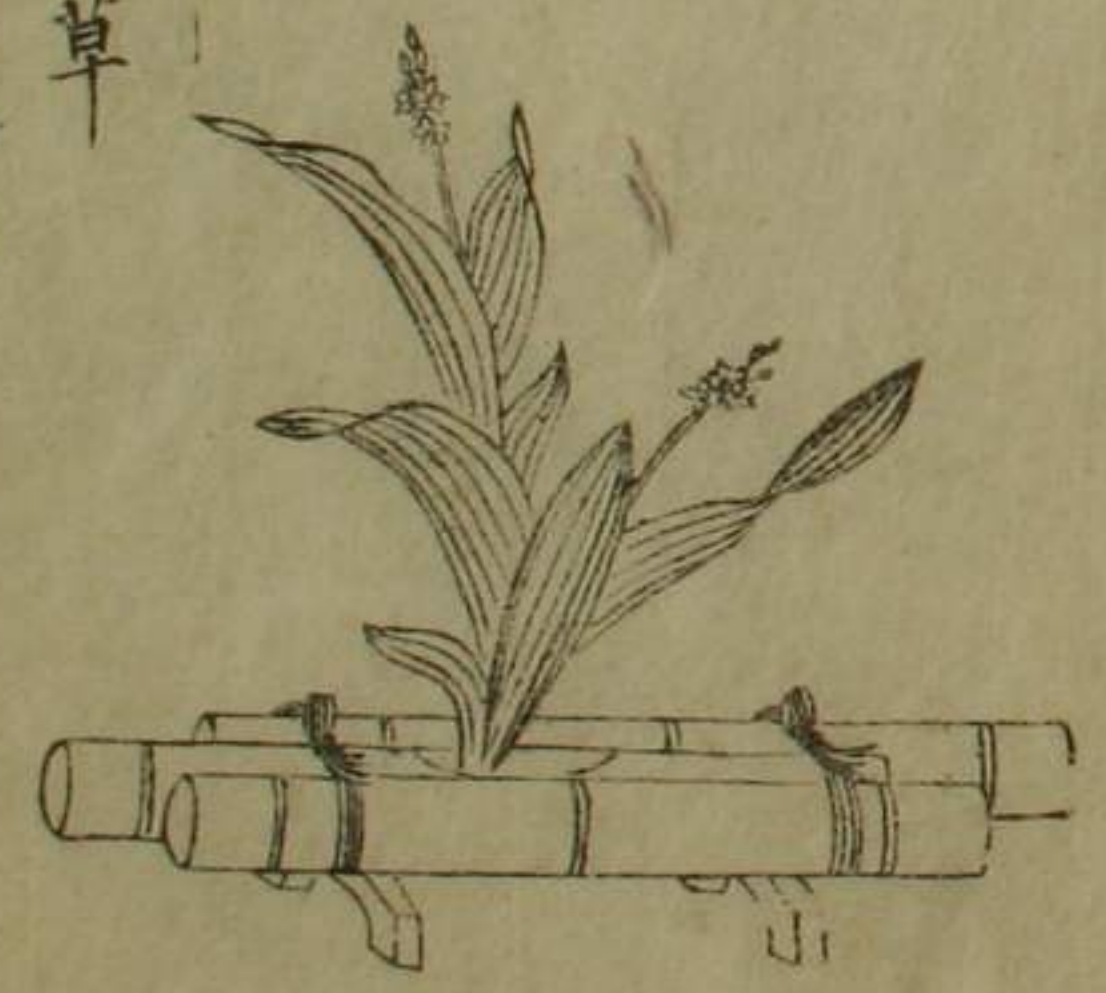
山菜萹
サニシユ
とハクミナ



鳥兜 毒草ナリ
鳥頭ナリ 雙寫寫菊也



海老根草
えいね
池偷草ナリ
鈴振草也



水引草

海根ナリ



鴨跖草也
碧蟬花也

ふと内



小刀留

玫瑰花也
薔薇ノ一挿ナリ



かく平瓶鉢挿小をくも出来かき時いといとりのけりも草葉のやう
りき抱固のくくは法以小柄并けまホキ外足倍ひねりて入る
又木叶オオ葉のかき抱下は固のぬ根と点つても四つ割一挿とて
在りも是未の仕方ハ時の依きりて
坐無つゝ活葉の年さともせよ
叶外ねたてま枝柄を葉口へぬり
平挿ホ不入る者アハ女子
呪ま
無しの

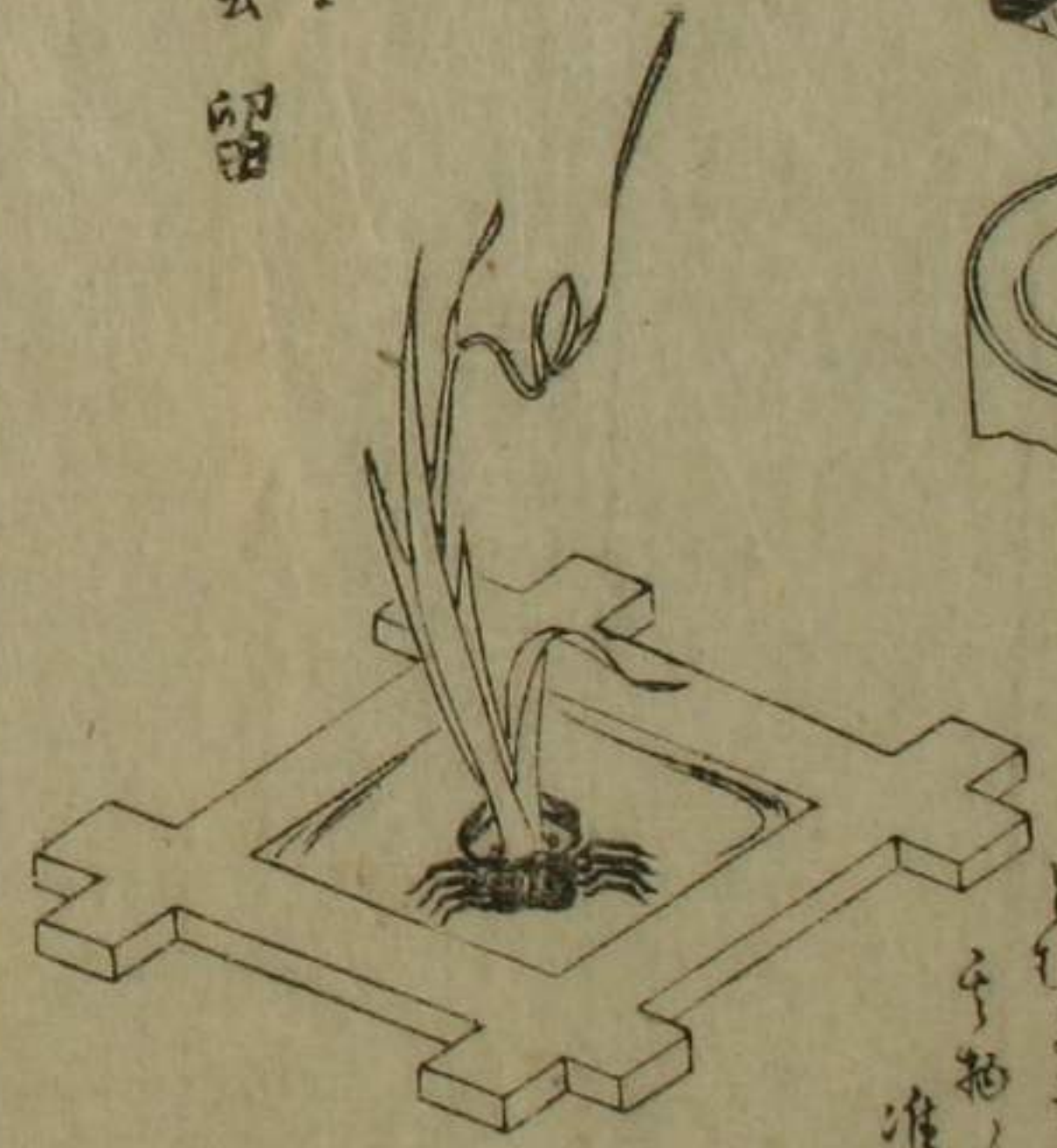
岡河骨

鎖留



牡若

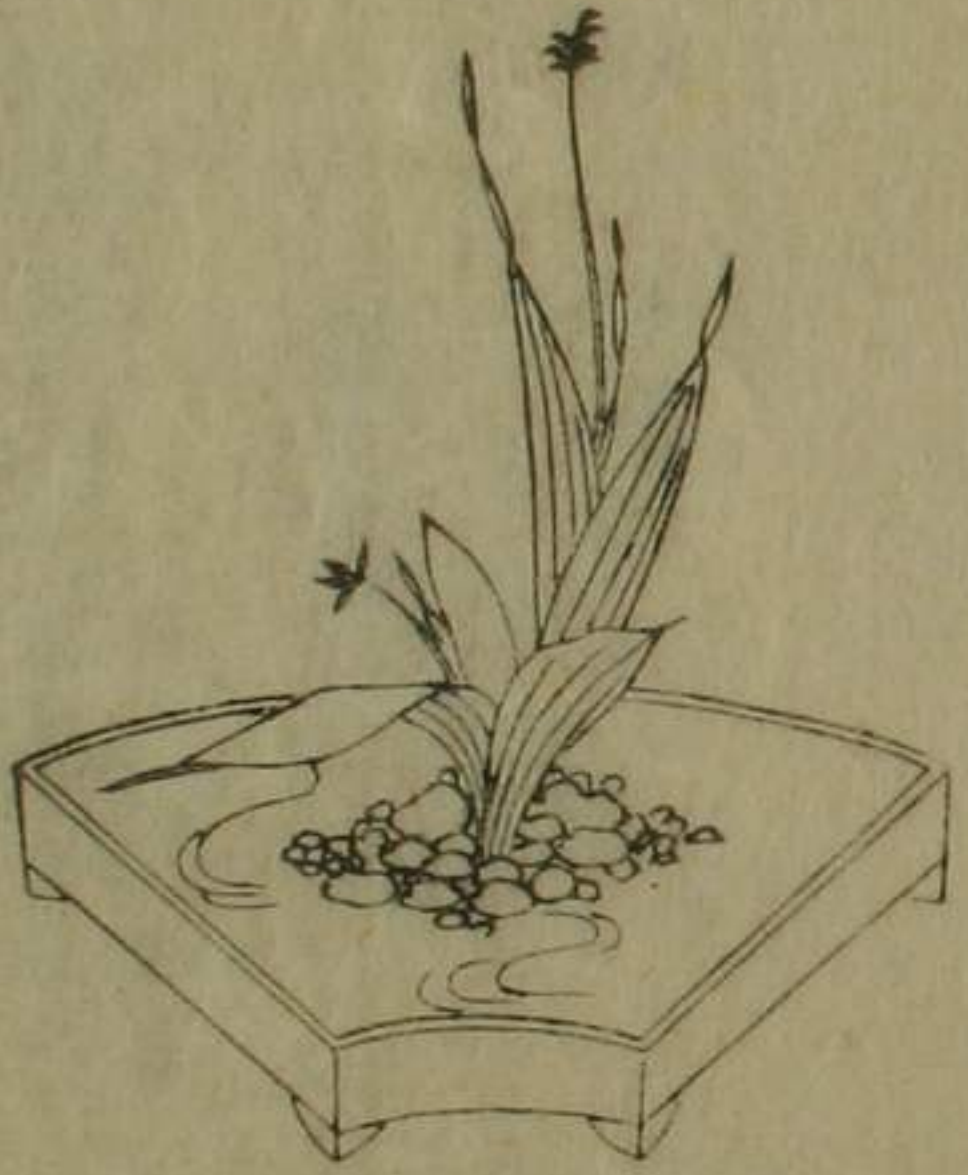
蟹留



岡のく根をとりて
いんも中いむま
けさおといな
解とあつあか
しあ又まとい
むも
すおく
准

水仙
白及草
連及トモ

水仙

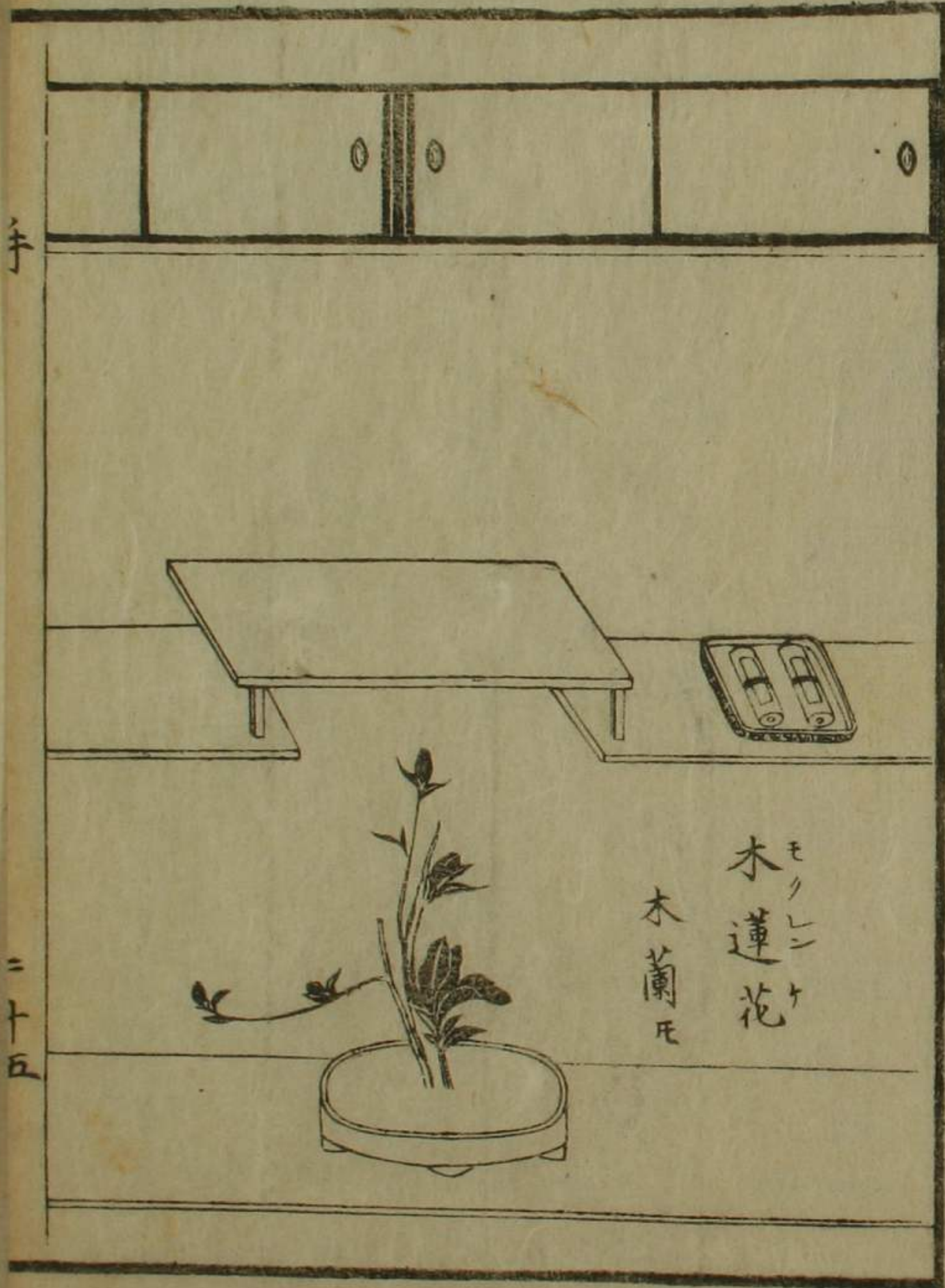


鏡留
趣と心考と



砂利とあハ小砂利
とさくもりて根
とさくもりて根
右とめハあねあね
中石と五つとらふ
と押さへ

手



モクレン
木蓮花
木蘭氏

二十五

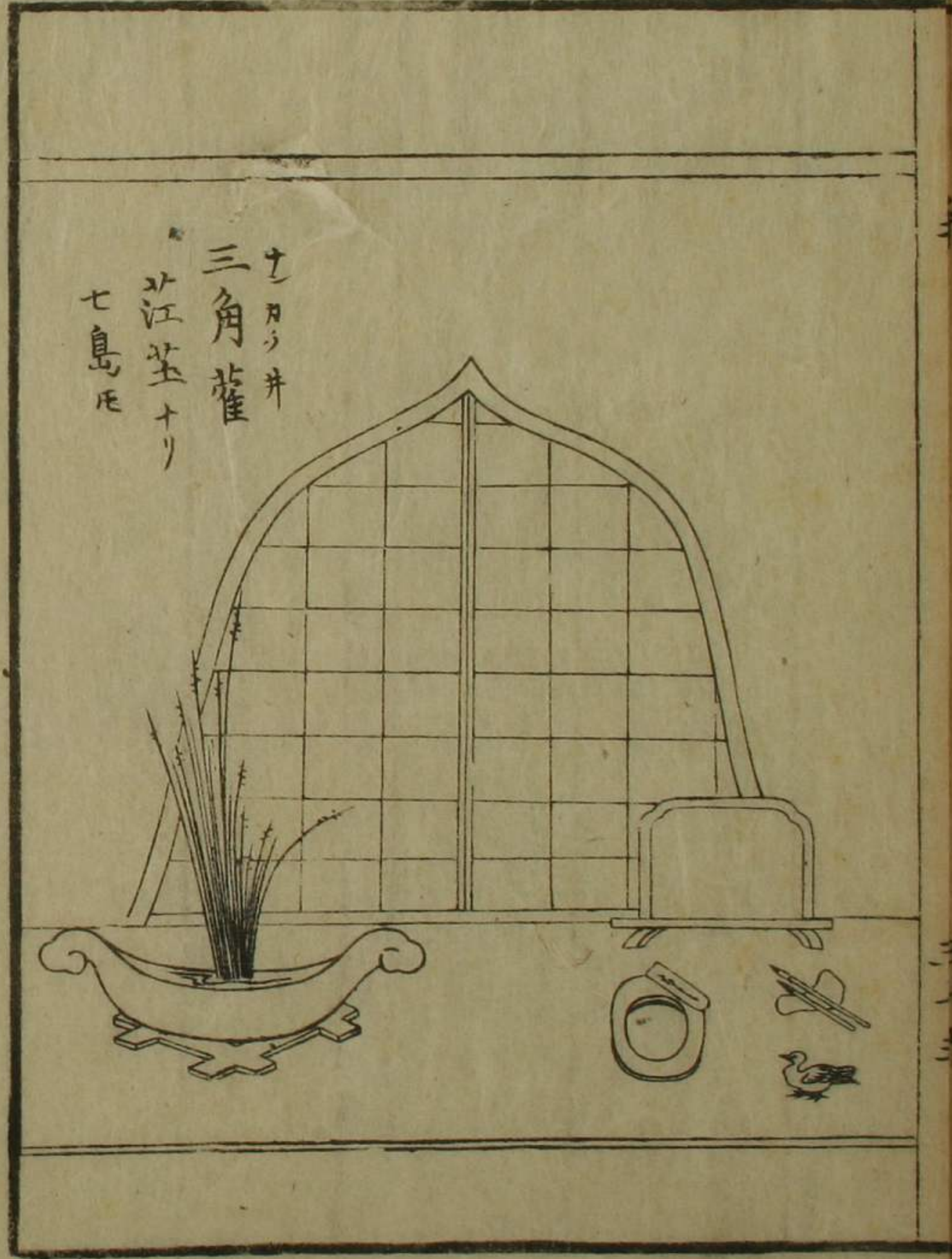
年



卓下花
心得有

カササウ
紅黄草
藤菊トモ

三十四



七島庄
北江竺十リ
三角藿
十リ井

